

一般選抜 出題の意図

<総合教養>

試験科目「総合教養」では、教科の枠を超えた横断的な総合問題を通じて、数量的領域、言語的領域、分析的領域におけるリベラルアーツ教育への適性を測るため、①講義に関する論述・資料を読み、②論述・資料を踏まえた内容の講義を聴き、③論述・資料と講義内容に関連した設問を出題する。

本学の一般教育の授業の疑似体験を通して、これまでに学んだ知識や技能だけでなく、アドミッション・ポリシーに示された知的好奇心、創造力、的確な判断力、論理的思考力などを柔軟に活用し、複雑な課題や変化する要求を問題解決してゆく能力を評価する。

<人文・社会科学>

人間と社会がどのように形成され、それが文学や芸術作品にどう反映されてきたのか、また愛、美、善、真といったテーマがいかに各国や地域が相互に社会的影響を及ぼしながら多様に発展しているかなどを、学術的な資料を通じて読み解く素養を評価する。

哲学、宗教、文学、芸術、歴史、政治、経済、社会など人文・社会科学に関わるトピックの学術論文について、これまでに学んだ知識を用いる設問、問題文の趣旨や論拠を理解・解釈する設問、概念や法則などを具体的場面に応用する設問、問題文を構成している要素、関係、原理などを分析する設問、問題文から学んだ要素や部分を総合する設問などを出題する。

<数理・自然科学>

自然界の諸現象をめぐる文脈のある課題について、これまで学んだ自然科学的知識を用いて読み解く資質と能力を評価する。数学、物理、化学、生物の4分野から2分野を選択して解答する分野別の出題を行う。解答は、多肢選択方式に加え、一部に用語、数式、化学式などの記述方式を含む。

出題の意図としては、これまでに学んだ知識を用いる設問、問題文の趣旨や論拠を理解・解釈する設問、概念や法則などを具体的場面に応用する設問、問題文を構成している要素、関係、原理などを分析する設問、問題文から学んだ要素や部分を総合する設問などを出題する。

<英語>

試験科目「英語」では、多様な文化的背景を持つ人々との対話ができる資質とグローバルなコミュニケーション能力をリベラルアーツ英語教育への適性の観点から出題する。リスニング技能については、キャンパス環境における会話を通じて他者の意見を理解し、適切に応答する力や、アカデミックな講義の要旨を理解し、的確に判断する力を測定する。リーディング技能については、人文科学、社会科学、自然科学、および学際的分野のトピックにつ

いての英文テキストを批判的、分析的に読む力を測定する。ライティング技能の基礎となる語彙力及び文法能力については、文脈において適切な語彙を選択できるかを評価する。

「日英バイリンガル面接利用」区分では、高等学校卒業レベルの日本語および英語スピーキング技能について、自分の考えを表現し、討論する力を確認する。なお、「英語外部試験利用」では、外部試験において英語 4 技能の CEFR レベルを確認しているため、日本語スピーキング技能のみを確認する。